

Dear地球民

第17号
1996年11月発行

編集発行
☎259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1
湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111

第11回

やっさ国際交流

ゆがわら国際交流協会の最大イベントである、ホームステイプログラム「やっさ国際交流」は、今年で11回目を迎えました。7月30日から8日間、ブラジル、モンゴル、韓国、台湾、マレーシア、オーストラリアの18名の若人が参加し、湯河原の家庭でホームステイをしました。8月2日には、ホストファミリーとともに、やっさパレードにも参加し、日本の夏を楽しみました。外国の方の考え方を知るには、たとえ少しの間でも、一緒に暮らしてみることが、一番の近道ではないでしょうか。異文化の人を受け入れることは、反対に自分の国を知る機会にもなります。この十年間の参加学生数は250名。O. B.の中には、赤ちゃんを抱いて、応援に駆けつけてくれた方もいます。お互いを知ろうという気持ち、敬う心から、このような長い交流が生まれるのではないのでしょうか。



昇栄堂味楽庵では、和菓子作りの工程を見学。
お抹茶とお菓子も、おいしくいただきました。

1996 第11回 やっさ国際交流
ホストファミリー&留学生



力石 晃英 (土肥)
讓志・馬場園 (ブラジル)
シルビオ・正・井上 (ブラジル)

山田 武夫 (宮下)
R. ムンクゾル (モンゴル)

加藤 能巳 (吉浜)
金 民 姫 (韓国)

田代 広伸 (鍛冶屋)
呉 俊 緯 (台湾)

梅原 実 (宮下)
康 允 禎 (韓国)

佐藤 佑二 (宮上)
ジュリアナ・教仙・中山 (ブラジル)

露木 芳江 (真鶴)
シモーネ・フェルナンデス (ブラジル)

北村 満 (鍛冶屋)
ジェニー・ブライアント
(オーストラリア)

中村 てる子 (吉浜)
D. ノロブサンボ (モンゴル)

高田 純嗣 (城堀)
ジュリア・好江・大崎 (ブラジル)

杉山 茂久 (宮上)
楊 育 勤 (台湾)

村田 義秋 (小田原)
アンジェリカ・真澄・伊藤 (ブラジル)

服部 壽子 (土肥)
陳 玉 燕 (台湾)

瀬野 由紀 (吉浜)
インタン・ジュリアナ・
ズルキフリー (マレーシア)

秋山 里花 (土肥)
パトリシア・ズッカ (ブラジル)

前田 正義 (吉浜)
林 宜 慧 (台湾)

永山 京 (鍛冶屋)
鄭 志 修 (韓国)



●●●●●第11回 やっさ国際交流スケジュール●●●●●

7/30(火)湯河原駅にて留学生を出迎え 開講式

8/1(木)町内バス見学とやっさ踊り練習

万葉公園、昇栄堂味楽庵(和菓子作り見学)

幕山公園、東台福浦小学校

2(金)やっさパレード参加

3(土)吉浜海岸にて花火大会見学、親睦会

5(月)手作り料理を持ち寄って、お別れパーティー

6(火)閉講式 駅ホームで見送り



ありがとう 再会の日まで、お元気で...

.....ホストファミリーと留学生の感想文から.....

この度、初めてホストファミリーを受けさせていただきました。非常に不安でしたが、とても良い学生さんと巡り会い -韓国、康允禎(カン・ユンチョン)さん-、日本語も日常会話程度は解り、私の作る料理も何でも食べてくださり、後片付けも積極的に気持ち良く手伝って、娘が一人出来たような、楽しく賑やかな一週間でした。また、年上の人、老人を大切に、父母を敬う心、気遣いの良さ、古き日本の礼儀正しさを感じ、頭の下がる思いです。感謝の気持ちと同時に、改めて反省をする思いで、大変勉強をさせていただきました。協会の方々のお仕事のすばらしさ、多くの方々との出会いを下さったことに感謝致します。

[ホストファミリー、梅原 実]

~海のない国から、ようこそ湯河原へ~ モンゴルといえば、草原、馬、パオ、そんなことを考えていたら、やってきた少女はタンクトップにショートパンツ、流行のスニーカーをはいた、ジャーナリスト志望の18才の元気ガールでした。我が家には、3人の子供がいますが、高1の長女には、最近流行のファッション雑誌を借りたり、スマップや安室のCDを聴いたりし、小3の次女とは、海で思い切り水遊びをしていました。(非常に仲良しになりました。)そして、小6の長男とは、適当に何もせず、一緒にごはんを食べました。到着して3日目の午後、居間のソファで、思わず昼寝をしてしまったらしく、三時間程ぐっすり寝ていました。かわいい寝顔でした。彼女にとっても、我が家にとっても、とても新鮮な体験だったと思います。これからは、モンゴルのことが、TV、新聞で報道される度、きっと他人事ではないような気がしそうです。モンゴル人は、大変、誇り高き民族と実感しました。

[ホストファミリー、山田 明美]



左から、ホストファミリーの永山さん、韓国の鄭志修(チョン・ジス)さん、康允禎(カン・ユンチョン)さん。「わたしたちの、ゆかた姿、きまつてるでしょう?」

ブラジルチームは、いつも元気いっぱい。
閉講式で、得意の歌と踊りを披露



初めて国際交流のホスト役を受け、お陰様で貴重な体験を沢山いただきました。不安と期待の中で、韓国の金民姫(キ・ミンヒ)さんを迎えたのですが、ごく自然に違和感もなく一週間過ごすことが出来ました。金さんの熱心な向学心に驚き、片時も辞書をはなさず、「お母さん、これ！これ！」と、指を差し、私とのコミュニケーションを取ってくれるのです。お料理の手際もよく上手に作り、またキムチの由来なども一生懸命に説明してくれる、優しいお嬢さんでした。私の韓国に対する先入観も、一寸変わりました。星の数ほどの中からのご縁で、与えられたことに感謝しています。そして期間中、同じ韓国のホスト役の、梅原様と永山様に大変お世話になりました。心から感謝致しております。

[ホストファミリー、加藤 武代]

第一印象は、自分の家にいるように感じたことです。私のホームステイの家族は(力石さん)、とても親切で、優しくて、それに色々なことに気がついてくれて、すごくよくしてくれました。私たちの両親は、私たちを喜ばせるために何でもしてくれました。例えば、富士山に登ったことは、一生忘れません。これは、ホストファミリーのお心遣いのお陰で実現したことです。大変ありがとうございました。

[シルビオ・タダシ・井上、ブラジル]

今回の交流は、沢山の国の人達が集まり合って、それぞれの思いが重なり合って、とてもよい勉強になりました。色々な国のことを沢山知って、もっとこれから勉強しなくてはいけないという気持ちにさせられました。今回は、年齢が近いということもあって、パトリシアとは、家族のように接することができました。また、英語だけではなく、ポルトガル語も勉強でき、とてもよかったと思っています。あっと言う間の8日間でしたが、私にとっては、何十倍もの時を過ごした充実感と、良い思い出が残っています。またいつか会えることを信じています。

[ホストファミリー、秋山 里花]



台湾の陳玉燕（チン・キョクエン）さんは、東京のJETT日本語学校で学んでいます。「わたしの、やっさ踊りは、いかがでしたか？」

湯河原は、綺麗で美しい町です。町の人々は、みんな親切で、暖かい心を持っています。一週間は短いですが、ホームステイからたくさんのお話を学びました。私は、料理が下手なため、料理について、あまり興味がありません。でも、お母さんのおいしい料理を食べたあとで、日本の伝統的な食べ物、お漬物とか紫蘇ジュースとか、大好きになりました。お兄さんは、私をあちこちへ連れていってくれました。ゆっくりと日本語で、色々なことを説明してくれ、本当にありがとうございました。服部さんと一緒に過ごす時間は、本当に幸せだと思います。この一週間は、日本の家族の生活や、文化を知るのに大変役に立つと考えます。やっさ国際交流の方と服部さんに、心から感謝致します。

〔陳玉燕、台湾〕

今回はジュニーを特別参加という形で迎えて下さった事を、心から御礼申し上げます。3年前、実家に彼女を受け入れた時（'93年、15歳のときに第8回やっさ国際交流に参加、門川の二見昌義さん宅にステイ）、私達は、彼女を預かる家庭環境ではなかったのではないかという、一寸した心残りのまま終了したという想いがありました。ところが、オーストラリアから手紙やプレゼントが送られ、忘れた頃に、また近況報告といった具合に、常にお互いの存在を確認し合うかのようにしてきました。そして、今年の1月、彼女は神戸へ留学生として再来日しました。前回のやっさ祭りを心から楽しんだのでしょう。お祭りへの誘いに、一も二もなく「行く」との返事でした。今回は自宅へ来てもらったこともあり、（それ以上に彼女が勉強して日本語を話せるようになっていたからでしょう）本当に短期間でしたが、コミュニケーションがとれたように思います。騒がしい子供達がいっても、私達と出来るだけ一緒にいたいと言ってくれた言葉！その一言は、一生忘れられない一言になりそうです。ジュニーは、国際交流のスタッフとして、4年後日本へ戻ってくると約束して帰りました。〔ホストファミリー、北村 明美〕

湯河原の一週間は、忘れられない思い出になりました。私はファミリーと一緒に、本当に楽しい日を過ごしました。田代さんの家族は、私を小田原城とか、箱根とか、色々な有名な所に連れて行きました。とても嬉しかったです。でも富士山が見えなかったのは、とても残念だと思いますね。チャンスがあったら、またここへ来て、みんなと一緒に富士山を見に行こうね。この一週間は、田代家のみなさんと、いい友達になりました。今年の誕生日を、湯河原で一緒に過ごしたのは、一生忘れない経験になりました。いろいろお世話になりました。本当にありがとうございます。 [呉 俊緯、台湾]

以前より、国際交流に何かお役に立つことがないかと思っておりましてところ、今回初めてホストファミリーに応募し、一週間ブラジル人学生と生活を共にすることが出来、本当によい経験をしたと思っております。短い期間でしたが、国は別でも元はと言えば日本人であり、共通する点も多く、特に祖父、祖母の方々は私と同世代のようで、非常に親近感を覚え、何だか孫娘のような気持ちになる時がありました。今回当方でお世話しましたジュリアナは、非常に明るく、また 利口な子で、現在妻と二人暮らしの毎日の中に、明るい光を与えてくれました。今後も機会がありましたら、国籍を問わず、国際交流のお役に立ちたいと思います。よい経験をさせて頂き、有り難うございました。

[ホストファミリー、佐藤 佑二]

真心というのは、本当に素晴らしいものです。私はこのホームステイで、国家間の文化交流が、どれほど大切なものかを知ることになりました。特に、日本から遠く離れた、しかし多くの共通点を持つブラジルに住む、日系人の私にとって、それはとても大切なことでした。村田さんご一家には、この忘れ得ぬ8日間に示してくださった、全てのご親切とお心遣いに対し、お礼を申し上げたいと思います。この経験を、私の人生の最高の思い出として、心の中に大切にしまいます。湯河原と小田原での素晴らしいホームステイで、ほかの学生達と分かち合った楽しい時間、人々、この土地を、いつも思い出さうことでしょう。本当に有り難うございました。

[伊藤・アンジェリカ・真澄、ブラジル]

今年もまた、おかげさまで素敵なお嬢が一人ふえました。(台湾、楊 育勤さん) 涙腺が弱くなったせいでしょうか、駅でプラカードを持って出迎え、一目見たとき、何故か涙が出てきて困りました。縁あって我が家に来ることになったのですが、ずっと以前から他人ではないような親近感を覚えました。日を追うごとに、彼女の良い面を次から次へと発見していくのが楽しみとなりました。日本女性が失いかけている、しとやかさ、奥ゆかしさ等を多分に持っていました。我が家の娘二人にも、多少は良い刺激となれば幸せです。

[ホストファミリー、杉山 由佑子]



私のホストファミリーは、とてもいい方たちで、友好的です。湯河原の家族のことを、モンゴルの私の家族のように思いました。お母さんとお父さんから、とてもいい印象を受けました。ホストのお母さんは、モンゴル料理とお茶を作ってくれました。湯河原ではとても満足し、楽しみました。湯河原と、お母さん。お父さんが大好きです。私は、すごく幸せでラッキーです。
[D. ノロブサンボー、モンゴル]

今回2回目の受け入れをさせていただきました。英語で語るにより、小学4年生の子供が、困ればよいと思っていたのですが、初めて「お母さん、和英辞典を貸してほしい」と言い、留学生（ブラジル、シモーネさん）と二人で、辞書を引ながら小田原へ行ってきました。私にとっては、何よりも嬉しいことでした。食事の量が少ないので、遠慮しているのかと心配しましたが、日本酒が大好きと飲んでくれて、安心しました。遊んでいるときは何とか理解できましたが、心の会話が十分に出来なかったものですから、私も、もっと英語を勉強しなくてはと実感しました。本当に楽しい8日間で、言葉や文章では言い尽くせません。ありがとうございました。

[ホストファミリー、露木 芳江]

お父さんとお母さんは、親切で面白くて、とても優しい人です。毎日お父さんとお母さんと妹と、お話ししたり、食事をしたりして、楽しい一週間を過ごすことができました。いろいろな国の人達と話したり、遊んだりしたことは、いい経験になったと思います。今回のホームステイでは、学校で日本語を聞いて学習するよりも多く会話することが上手にできて、大変勉強になりました！また、湯河原に来たいです。どうもありがとうございました。

[林 宜慧（リン・ギケイ）、台湾]



モンゴルのノロブサンボーさんと、ホストファミリーの中村さん。モンゴルを象徴する、草原を駆け回る馬をあしらった歓迎の帽子とともに。



「ブラジルから、ようこそ。」

アンジェリカさんを迎える村田さんご夫妻。

— 湯河原駅にて —

ジュリアナ(マレーシア)を、やっさ国際交流に特別参加させていただき、どうも有り難うございました。彼女は、AFS(American Field Service)のアセアンプログラムのショートステイメンバーとして、6月半ばから2カ月間、我が家で預かっておりました。前半1カ月は、家の娘と一緒に高校生活を体験したのですが、後半は夏休みで、その間に「やっさ」に参加させていただけたことを、とても喜んでおりました。敬虔なイスラム教徒で、いろいろと宗教上の制約が多く、せっかく海辺の町へ来ながら、泳ぐこともできず残念でしたが、やっさ踊りは楽しかったようで、湯河原の強い印象になったようです。他の国からの留学生と知り会えたことも嬉しかったようです。彼女は、まじめさとユーモア、茶目っけをたっぷり合わせ持った、魅力的な女の子でした。特に、宗教上の育ちからくるのか、自分の考えをしっかりと持った子で、納得のいかないことは安易に妥協しない等、我々も見習いたい思いでした。 [ホストファミリー、瀬野 由紀]



【お知らせ】

'96クリスマス会...12月22日(日)夜、スタジオ千夢にて

Hello

안녕하세요

外国語講座見聞

Olá

안녕

☆英語 / 5月～7月.....南スージー先生
(英国ケンブリッジ大大学院卒)

南先生は、シンガポールのご出身。3人の子供さんのお母様で、フジ・フィルムで翻訳や通訳のお仕事をなさっています。英語、日本語はもちろん、北京語、ドイツ語、フランス語などもO.K. お忙しい中、ガールスカウトのボランティアにも参加され、本当に話題が豊富でいらっっしゃいます。生徒さん同志がすぐに仲よくなってしまうのも、何でも聞けるクラスの雰囲気と、南先生のお人柄によるのかも知れません。

☆ハンゲル語 / 9月～12月.. 劉 卿美(ユキヨミ)先生
(韓国外国語大学卒、お茶の水女子大大学院
在学中、東海大学講師)

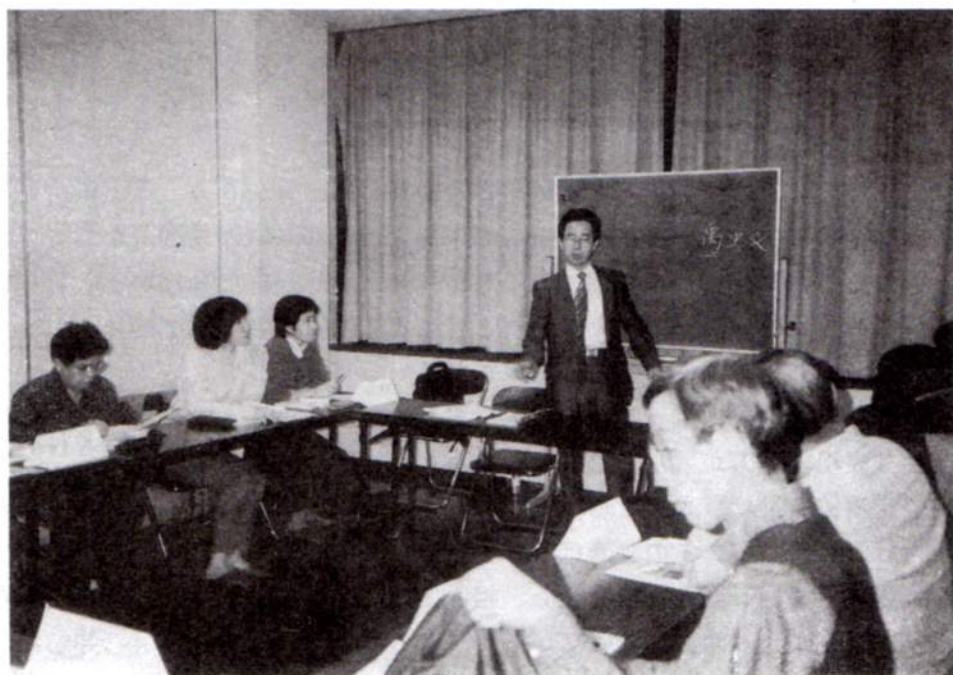
劉先生は、比較文化を学ぶ大学院生。毎週土曜日、東京から通って来ていただいています。韓国の文字、ハンゲルは、母音・子音を表す記号が組み合わさった、合理的な表音文字。語順や文法は、日本語によく似ています。日本人には学びやすい言葉だそうですが、先ずは文字を覚えなくてはなりませんので、生徒さんは、日夜奮闘中!

☆ブラジル・ポルトガル語 / 6月～8月
....ジュリア・好江・大崎先生
(マッケンジー大学卒)

ジュリア先生はサン・パウロ出身の日系三世。3月まで鍛冶屋の早藤果樹園芸で、農業研修をしています。とても明るく、真面目な方で、かわいいイラスト入りの手作りテキストで、ご指導下さいました。やさし国際交流にも参加され、お友達もたくさんできたそう。ポルトガル語は、動詞の人称変化を覚えなくてはなりませんから、なかなか根気が要ります。講座終了後のミニパーティーでは、ブラジルの写真を見ながら、楽しいひと時を過ごしました。

☆中国語 / 10月～12月.. 禹 忠義(ウチウギ)先生
(北京師範大学卒、中国人民大学助教授、
東海大学講師)

中国語には、日本語にない発音が沢山あり、さらに四声という音の上がり下がりもあります。禹先生の口元を見ながら発音練習をしています。一人一人、丁寧に直していただいて、みんな真剣に取り組んでいます。



中国語講座の授業風景。生徒さんの中には、「やさし国際交流」のホストマザーもいらっっしゃいます。



国際交流のあり方



今回のテーマは湯河原国際交流協会のあり方を問うことではなく、一般的な国際交流について、ヒントを得たことを率直に述べてみたい。

六月に私的な会合が越後湯沢であり、初めて新幹線で旅行する機会を得た。

新幹線でも越後湯沢駅に入る前は長いトンネルを過ぎると、雪国に出る風景が展開されることを知った。

そこで思い出したのは、川端康成の雪国の冒頭にてでくる書き出しの一節である。

“国境の長いトンネルを抜けると雪国であった”

さて、話題をいきなり英語に切りかえてみることにする。

ある人の書いた（その人の名前は忘れました）エッセイに、川端康成の雪国の冒頭にてでくる一節は英語に翻訳できない。何故ならば、主語がないからであると。

私はいきなり驚いたのである。なるほど、そう言えば主語らしきものはない。

しかし、日本人にはその意味する風景が浮かび、充分理解できるのである。

アメリカ人にも、この話しをして事実を確かめたが、雪国を主語として考えると、英訳できないことはないとの返事だったが、英訳できるか、できないかの問題ではない。

私の会得したことは、英語はロジックつまり論理的に構成されており、それに反して日本語は感情的に解釈できる点が大いにあるのではないか？全部とは言えないが。

例えば、日本語ではよく、まあまあそこまで言わなくてもと分かりあえるが、英語では言葉の構成の中で、主語がどれか、いつも気にしながら話しをしないとしないような気構えが必要になる。

この言葉の表現がいつもお互いの交渉とか単なる話しの場面でも誤解を生むものになっているのである。

日本人なら、そこまで言わなくても、誠意さえ通じれば、分かりあえると割合簡単に考えることが今まであった。どうもそんな簡単なことではないと最近分かってきた。

“ノーと言える日本”という本が出て、これがベストセラーになったが、これに対抗して今回中国でも、このテーマで“ノーと言える中国”という本がベストセラーになっているらしい。中国語も論理的に構成されている言葉らしい。

つまり、ノーかイエスか、はっきりさせて、お互いが納得するという、日本人にはきわめて苦手な表現の仕方が要求されてくるような時代がきているのである。

湯河原国際交流協会では、永年このボランティア活動に専念し、年々その好意ある人々に支えられ、発展しているのは喜ばしい限りだが、外国人を受け入れる側として日本人のみに通じる事柄、話し方を見直し、相手側のことを、より理解する事が大変大事なことはないかと、余計なことながら今日この頃思うのである。（石井宏樹）